

CASBEE京都-新築(2015年版)
(仮称)京都三哲プロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
客室の騒音目標値を40dBとしている				3.0	0.15	3.4	1.00	3.2
1.2 遮音								
開口部遮音性能				3.0	0.40	4.0	0.40	
1 界壁遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音								
				3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温				3.0	0.50	3.0	0.50	
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.57	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25	3.0	0.43	
2.2 湿度制御								
				3.0	0.38	-	-	
2.3 空調方式								
				3.0	0.20	3.0	0.20	
				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率				3.0	0.30	3.0	0.30	
2 方位別開口				3.0	0.60	3.0	0.60	
3 昼光利用設備				-	-	5.0	-	
3.2 グレア対策								
1 昼光制御				3.0	0.40	3.0	0.40	
				3.0	0.30	3.0	0.30	
3.3 照度								
				3.0	1.00	3.0	1.00	
3.4 照明制御								
				3.0	0.15	3.0	0.15	
				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				4.8	0.25	4.7	1.00	4.7
2 アスベスト対策				5.0	0.50	5.0	0.63	
				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気								
1 換気量				4.5	0.30	4.3	0.38	
2 自然換気性能				4.0	0.50	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				5.0	-	3.0	0.33	
				5.0	0.50	5.0	0.33	
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視				5.0	0.20	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				3.4	0.40	3.7	1.00	3.6
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.40	3.5	0.60	
3 バリアフリー計画				-	-	3.0	0.50	
				3.0	1.00	4.0	0.50	
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				3.0	0.30	4.0	0.40	
2 リフレッシュスペース				2.0	-	5.0	0.50	
3 内装計画				3.0	-	-	-	
				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計				4.5	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保				5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				4.0	0.50	-	-	
				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性				3.5	0.30	-	-	3.5
2 免震・制振性能				3.8	0.50	-	-	
				4.0	0.80	-	-	
				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.25	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.13	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.13	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.13	-	-	
				3.0	0.25	-	-	
				3.0	0.25	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			空調配管は耐震支持を指定し、かつ重要度が高い系統を他系統と分けて計画している。	3.4	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備			節水型器具の採用、配管系統区分の細分化、受水槽に緊急用水栓を設置している。	4.0	0.20	-	-		
	3	電気設備				4.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性						3.6	0.30	2.4	1.00	2.8	
3.1 空間のゆとり											
1 階高のゆとり									1.8	0.50	
2 空間の形状・自由さ						●大切	A(全国版準用)		1.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり									3.0	0.40	
3.3 設備の更新性									3.0	0.50	
1 空調配管の更新性						●大切	A(全国版準用)	天井スペース及びEPSの確保により構造部材だけでなく仕上げ材を傷めることなく更新・修繕ができる。	3.6	1.00	-
2 給排水管の更新性						●大切	A(全国版準用)	天井スペース及びEPSの確保により構造部材だけでなく仕上げ材を傷めることなく更新・修繕ができる。	4.0	0.20	-
3 電気配線の更新性						●大切	A(全国版準用)		4.0	0.20	-
4 通信配線の更新性						●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-
5 設備機器の更新性						●大切	A(全国版準用)	倉庫階子屋から空調管の敷設及びEPSの確保により構造部材だけでなく仕上げ材を傷めることなく更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-
6 バックアップスペースの確保						●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-
Q3 室外環境(敷地内)											
1 生物環境の保全と創出						●とも	A'(全国版準用)	中庭・北庭・東庭の植栽が生物環境に寄与している。	-	0.30	-
2 まちなみ・景観への配慮						○	C(独自加点) D(独自基準)	伝統的な建築構成を環境制御に活かしている。	4.0	0.30	-
3 地域性・アメニティへの配慮						●とも、 自然	A'(全国版準用)	まちとの中間領域となるピロティの空間を設けている。	3.5	0.30	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						●とも	A'(全国版準用)		4.0	0.50	-
3.2 敷地内温熱環境の向上						●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-
LR 建築物の環境負荷低減性											
LR1 エネルギー											
1 建物外皮の熱負荷抑制											
2 自然エネルギー利用						●自然	A(全国版準用)		3.0	0.20	-
3 設備システムの効率化						●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.86 住宅(専有部) -	3.0	0.10	-
3.1 集合住宅以外の評価(3a.3b)								太陽光発電を採用している。	4.0	1.00	-
3.2 集合住宅の評価(3c)									-	-	-
4 効率的運用									3.5	0.20	-
4.1 集合住宅以外の評価									3.5	1.00	-
4.1.1 モニタリング								主要な用途別エネルギー消費の内訳が把握できるよう計器を設置している。	4.0	0.50	-
4.1.2 運用管理体制									3.0	0.50	-
4.2 集合住宅の評価									-	-	-
4.2.1 モニタリング									4.0	-	-
4.2.2 運用管理体制									3.0	-	-
LR2 資源・マテリアル											
1 水資源保護											
1.1 節水											
1.2 雨水利用・雑排水等の利用											
1.2.1 雨水利用システム導入の有無						●自然	A(全国版準用)	節水コマなどに加えて、節水型便器を採用している。	3.4	0.20	-
1.2.2 雑排水等利用システム導入の有無									4.0	0.40	-
2 非再生性資源の使用量削減									3.0	0.60	-
2.1 材料使用量の削減						●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用									3.0	0.20	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材						●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.0	0.20	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0	0.30	-
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0	0.70	-
3.2.1 消火剤									-	-	-
3.2.2 発泡剤(断熱材等)									-	-	-
3.2.3 冷媒									3.0	1.00	-
LR3 敷地外環境											
1 地球温暖化への配慮											
2 地域環境への配慮											
2.1 大気汚染防止											
2.2 温熱環境悪化の改善						●とも	A(全国版準用)	運用時のエネルギーに係るCO2排出量が参照値を下回っている。	3.5	0.33	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.8	0.33	-
2.3.1 雨水排水負荷低減									3.0	0.25	-
2.3.2 汚水処理負荷抑制									3.0	0.50	-
2.3.3 交通負荷抑制									2.5	0.25	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制									3.0	0.25	-
2.3.5 汚水処理負荷抑制									3.0	0.25	-
2.3.6 交通負荷抑制									1.0	0.25	-
2.3.7 廃棄物処理負荷抑制									3.0	0.25	-
3 周辺環境への配慮									3.0	0.33	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-
3.1.1 騒音									3.0	0.33	-
3.1.2 振動									3.0	0.33	-
3.1.3 悪臭									3.0	0.33	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制									3.0	0.40	-
3.2.1 風害の抑制									3.0	0.70	-
3.2.2 砂塵の抑制									-	-	-
3.2.3 日照阻害の抑制									3.0	0.30	-
3.3 光害の抑制									3.0	0.20	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									3.0	0.70	-
3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる